

## 入江干拓地区

— 滋賀県米原市 —

(株)三東工業社 北川 孝

### 1. 入江干拓地区の概況

入江干拓地は滋賀県北部の米原市に位置し、かつては入江内湖と称し、南は松原内湖と接した面積約300 haの風光明媚な湖沼であった。琵琶湖周辺に存在する内湖は、1940～1950年（戦中・戦後）の食糧増産の必要性から1970年ごろまでに、15内湖で2,512 haの大規模な干拓が行われた。入江干拓地区はその最初の地区として、1944年農地開発営団により工事が始まった。干拓地の心臓部ともいえる排水機場に4台の電動ポンプが設置されるとともに承水路や用排水施設が整備され、1950年に256 haが干陸化し新たな農地が造成された。その後、2度の災害により農地が冠水したため、1962年度から県営災害復旧事業によるディーゼルエンジン2台の増設や堤防の補強などを行い、施設の管理に努めてきた。

しかし、ほとんどの施設が軟弱地盤上に築造されており、年月の経過とともに地盤沈下と老朽化が進行して主堤防からは漏水し、承水路ではヘドロの堆積によるヨシやマコモの密生が通水を阻害するようになった。また、排水機も近年の水質悪化による機能低下と、農地汎用田化の条件整備に対応する必要性が生じてきた。

これらのことから1982年度から県営ため池等整備事業などにより、干拓施設の整備が鋭意実施されている。

### 2. 受益面積の変化

本地区の干拓完了時（1950年）の地区面積は260.8 ha（水田239.2 ha、畑16.7 ha、宅地4.9 ha）であり、その後、米原小・中学校用地、県道彦根・米原線、国道8号線バイパス用地等により減少してきているが、緑豊かな田園地帯を育てている。2021年1月現在の地区面積は235.0 ha（水田220.0 ha、畑11.0 ha、その他4.0 ha）である（図-1、写真-1）。

### 3. 主要な干拓施設

(1) 排水機場工 排水機場工（写真-2）は当初完成以降、県営災害復旧事業およびため池等整備事業により、現在、表-1のとおり更新されている。

(2) 承水路工 承水路（表紙写真）は当初完成以降、県営ため池等整備事業および農地防災事業により、



図-1 地区全域図



写真-1 地区全景



写真-2 排水機場工

表-1 施設の更新（排水機場工）

	当初	更新後
実施事業	国営琵琶湖干拓事業	県営災害復旧事業 県営ため池等整備事業
実施年度	1945年	1962～2003年
口径・ポンプ台数	800mm × 2台 500mm × 2台	800mm × 5台 700mm × 1台 600mm × 1台
ポンプ形式	横軸両吸込渦巻	横軸両吸込渦巻

表-2 施設の改修（承水路工）

	当初	改修後
実施事業	国営琵琶湖干拓事業	県営ため池等整備事業 農地防災事業
実施年度	1946～1949年	1982～2020年
構造	素掘り水路	(左岸) 鋼矢板打設工 (右岸) コンクリート張りブロック工
延長	7,952m	7,952m

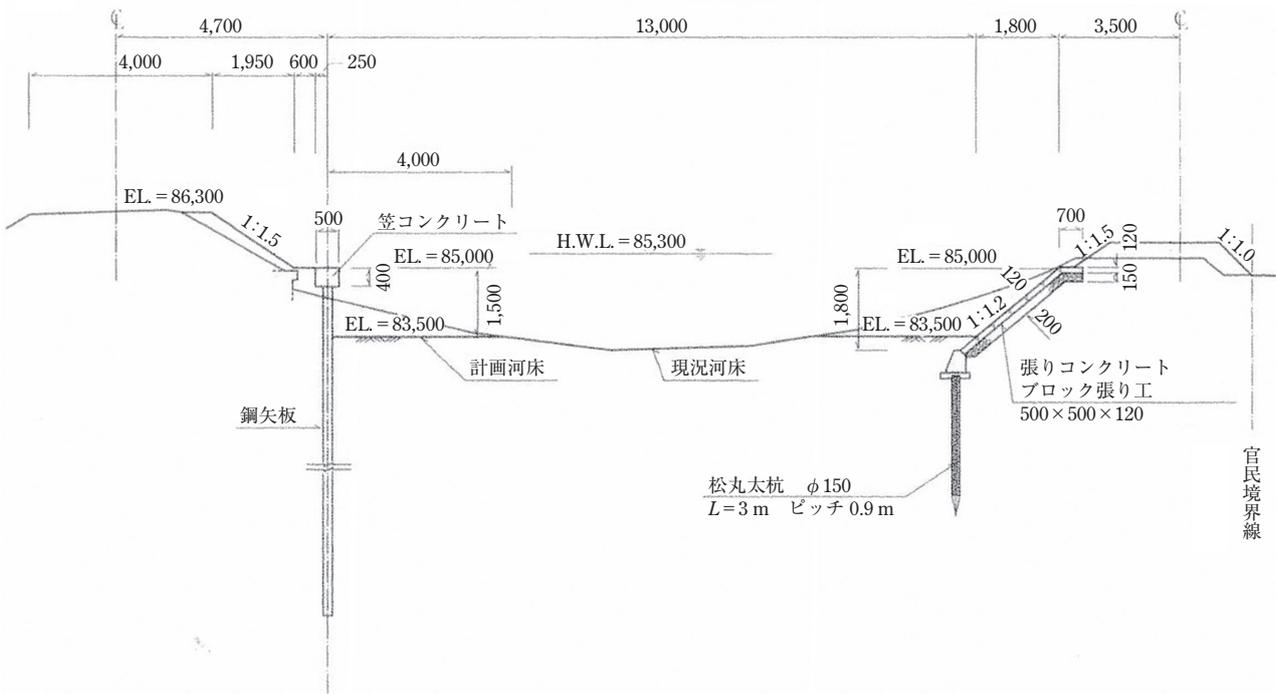


図-2 標準断面図（承水路）

現在、表-2のとおり改修されている（図-2）。

(3) 幹線排水路工 幹線排水路（写真-3）は当初完成以降、県営ため池等整備事業等により、現在、表-3のとおり改修されている（図-3）。

#### 4. 施設の維持管理

入江干拓土地改良区は1951年3月に設立され、組合員数は2020年4月現在で576名である。

排水機場、承水路、幹線排水路等の主要施設の維持管理は土地改良区が、農道・農用地周辺の草刈りや支線排水路の土砂・ごみの撤去除去作業、農道の碎石による補修等の末端施設の維持管理は、まるごと保全向上対策の活動として各集落の組合員が行っている。

#### 5. 現在実施中の事業

2020年度には、干拓施設および基盤整備にかかる4事業が鋭意実施されており、それぞれの概要を表-4～7に示す。



写真-3 幹線排水路工

表-3 施設の改修（幹線排水路工）

	当初	改修後
実施事業	国営琵琶湖干拓事業	県営ため池等整備事業
実施年度	1944～1949年	1987～1996年
構造	素掘り水路	鋼矢板打設工 排水アーム柵渠工（底部に胴木を設置）
延長	1,144m	1,144m

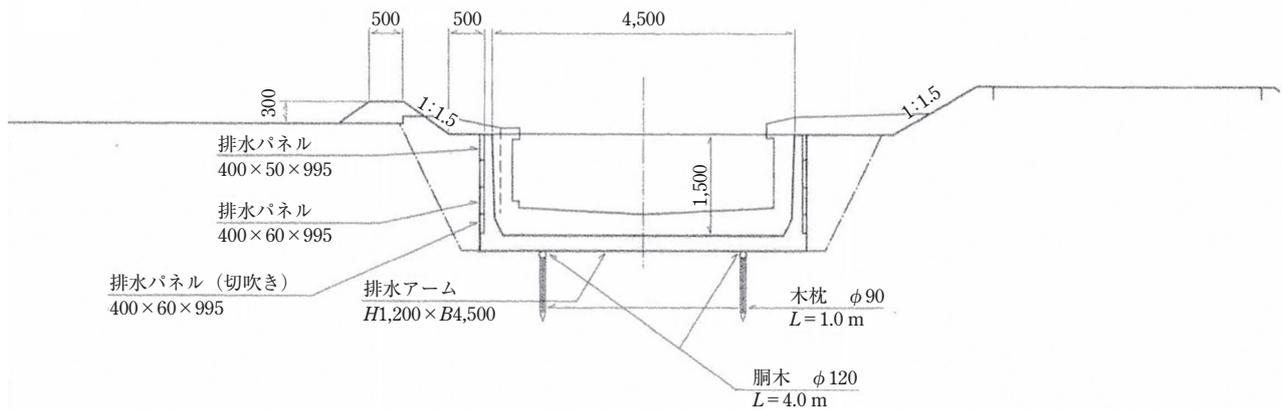


図-3 標準断面図（幹線排水路）

表-4 実施中の県営経営体育成基盤整備事業

地区名	入江善積地区
予定工期	2021～2025年
事業目的	・干拓地特有の軟弱地盤による不同沈下や、施設の老朽化による機能低下の解消 ・担い手となる中心経営体の利用集積を進め、営農の省略化・効率化を促進する
事業概要	・基盤整備 66.9 ha の実施 ・嵩上げによる軟弱地盤の改良：約 15 ha（予定） ・整地工：畦畔除去 66.0 ha ・道路工：敷砂利舗装（3.0/4.0） $L=7,887$ m ・用水路のバイブライン化：VU $\phi$ 150～350 mm, $L=6,199$ m ・排水路工：アーム欄渠工 $B400 \times H600 \sim B800 \times H900$ , $L=5,057$ m ・暗渠排水工：集水管 VU $\phi$ 65～100 mm, 吸水管 PE $\phi$ 60 mm, 66.9 ha
関連事業の取組み	2020年度に地籍調査（約 29 ha）を実施

表-5 実施中の農地防災事業

地区名	入江干拓II期地区
予定工期	2012～2021年度
事業目的	干拓施設の補修
事業概要	承水路護岸ブロック張り工 $L=2,600$ m 水門改修1基
2020年度実施事業	護岸ブロック工 $L=242$ m 函渠工1カ所

表-6 実施中の団体営かんがい排水事業

地区名	入江地区
予定工期	2020年度
事業目的	干拓施設の緊急補修
事業概要	排水機場除塵機の電動モーターの緊急的補修
2020年度実施事業	排水機場除塵機2号電動モーターの緊急的補修

表-7 実施中の農村地域防災減災事業

地区名	入江V期地区
予定工期	2022～2026年度
事業目的	用排水施設の機能回復
事業概要	用排水施設の改修計画策定 ポンプの分解整備 補器類・電気設備の更新 除塵機の更新・部品交換・塗装 起伏堰遠隔制御設備の新設
2020年度実施事業	用排水施設の改修計画調査

## 6. 今後の取組み

入江干拓地区は、干拓事業完成から約70年の歳月を経てきたが、排水機場、承水路、幹線排水路等の主要施設は、これまでため池等整備事業、農地防災事業等の実施により、計画的かつ適切に維持管理されてきた。

しかし、干拓地特有の地盤軟弱化が解消されていない箇所においては、汎用化が進まず遊休農地が生じ、担い手も育成されていないのが現状である。2007年からは、県営経営体育成基盤整備事業の実施による基盤整備を集落で取り組み、地域住民と農林関係者が一丸となった遊休農地の解消と、新しい経営体づくりが図られつつある。

## 参考文献

- 1) 北川 孝：大地を流れる—滋賀県入江干拓地区幹線排水路一，水土の知80(12)，pp.67～68（2012）